…田舎日記　山賀正伸写真展 | 2021/5/7-6/7 | G&S根雨

G&S
根雨

写真という柱に、触れて、さわって、なでて、時には抱きつき、周りを幾度も歩き回り続けながら、「田舎日記」は、つづられ、継続された。そういう写真作家の営みの根底が、美しいグレーの階調に、映りこんでいる。人生の紆余曲折、その隣に敷かれた、まっすぐで透明に紡ぎ出された糸のように、喜怒哀楽のレールは、今も延び続けている。作品には、季節が息づく。豪雪の里を中心に、とらえられた四季折々の生活が、味わい深いペーソスを含んだ画面構成となり、その視座は、時に雪の舞い降りる音を掴み、人々の心音を聞かせる。地下の水脈と共鳴し、植物の息吹を見せつける。作品に浸るように観てほしい。きっと見えてくるに違いない。作家のまわりに流れる、ゆったり思考する時間の内に、積み上げられた試行錯誤と印画紙の山、無造作に置かれた写真雑誌への無数の書き込み、無機質なカメラ機材に浮かぶ血管のような傷、…なんと、それらすべての要素が楽しげに、その作品たちに向かって飛翔し、昇華して血肉と化した。……山賀正伸が見えてくる。

石井仁志

（20世紀メディア評論・プロデューサーディレクター G&S根雨）

「田舎日記」(95) 2014年 ゼラチンシルバープリント

山賀正伸写真展
… 田 舎 日 記

2021年 5月7日(金)－6月7日(月)

開廊時間：13:00-19:00｜休廊日：水曜・木曜
入場無料、作品販売あり

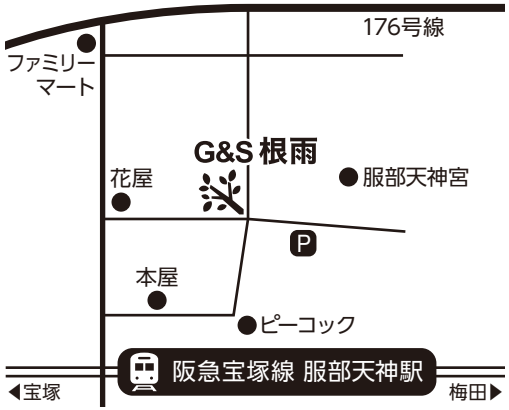
「田舎日記」(64) 2016年 ゼラチンシルバープリント

山賀 正伸 （1950-）

1950年 新潟県の小千谷市に生まれる。1980年ごろから自分の生活空間の日常写真を撮り始める。2008年 アサヒカメラ組み写真の部 年度賞 3位、2014年 新潟県展 県展賞「迎える春」無監査、2015年 個展「犬が笑う」森岡書店、2020年 船橋市写真展 写真集の部 北井一夫賞「旅の途中」。

石井 仁志 （1955-）

プロデューサー・ディレクター（G&S 根雨）
細江英公、北井一夫をはじめ、多くの写真家の展示を企画運営。近現代文化史研究、中島健蔵研究、音楽、写真、映像、文学と幅広い執筆活動を展開。清里フォトアートミュージアムのヤングポートフォリオ、新潟大学地域映像アーカイブを支援協力。「生誕百年 中島健蔵展」監修（2004年 東京都写真美術館）『占領期雑誌資料大系大衆文化編』全5巻（2009年 岩波書店）編集・執筆。



阪急宝塚線 服部天神駅（梅田から11分）下車 徒歩1分
駐車場なし *近隣のコインパーキングをご利用ください

G&S 根雨

≫ https://gsneu.info

Follow us!

561-0851 大阪府豊中市服部元町1-6-1-1F
Tel: 06-7709-3790｜E-mail: g.s.neu.contemporary@gmail.com

トークイベント
山賀正伸 × 石井仁志（G&S根雨 プロデューサー）
「遅れて来た!!大型新人写真家の真骨頂」
5月23日(日)14:00〜15:30｜参加費：2,000円（ドリンク付）、要予約
*終了後、サイン会予定｜作家在廊 5月21日(金)〜24日(月)